

第5回大都市戦略検討委員会 報告資料

都心の国際化戦略

～大阪圏における議論に向けて

大阪府特別顧問／大阪市特別顧問
大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所所長
大阪市立大学都市研究プラザ特任教授
国際日本文化研究センター客員教授
大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長
大阪商工会議所都市活性化委員会副委員長
近畿圏広域地方計画有識者会議委員
観光学術学会評議員
イベント学会副会長

橋爪紳也

1. 委員会の論点と関西圏の方向性

大都市戦略検討委員会における論点(第1回提示)

都市の国際競争力・都市再生

- ◆成長戦略の一環として都市の国際競争力強化を図る観点から今後の大都市戦略はいかにあるべきか。
- ・地方創生を目指す中で、大都市の国家戦略上の役割をどのように整理すべきか。
- ・我が国大都市の強み、弱みは何か。国際競争力強化の観点から都心部等に必要な機能にはどのようなものがあるのか。
- ・都心部等において、開発等を契機として公民が連携して必要な機能（例えば、緑やオープンスペースの創出・ネットワーク形成による良好な都市環境、地下通路ネットワーク形成等による利便性の高い交通結節機能）をどのように確保すべきか。
- ・施設の効果的な管理運営に向けて、どのようなマネジメント手法が有効か。

大都市圏での高齢者の急増等

- ◆人口減少、高齢化の中で、「暮らしの場」としての大都市はどうあるべきか。
- ・限られた介護・医療サービスを前提に、高齢者が自立的に生活できる住まい方はどのようなものであり、そのために必要な都市構造、施設や機能の配置はいかにあるべきか。
- ・出生率や女性の労働力率が低い大都市において、仕事と子育てを両立し、安心して子供を産み育てることのできる環境形成のために何が必要か。
- ・鉄道等の公共交通を軸として形成されている大都市の特徴を踏まえ、鉄道駅を中心とした沿線に求められる役割・機能はどのようなものか。
- ・空き地、空き家、空き施設等の増加に対し、その有効活用を図るにはどうすればよいか。

大都市の災害への脆弱性

- ◆我が国の成長を牽引し、経済・社会・文化活動で重要な地位を占める大都市の防災上の課題は何か。
- ・国の経済活動等の持続性確保、速やかな復元のために、大都市でどのような対策に優先的に取り組むべきか（例えば、拠点地区における災害時の業務継続に必要なエネルギーの自立化・多重化）。
- ・首都直下地震、南海トラフ巨大地震に備え、大都市の防災上の課題は何か。
- ・降雨の局地化、集中化、激甚化に対応した大都市の防災・減災対策はどのようなものか。
- ・弱点の克服を超えて、都市の国際競争力の強化に積極的に資する対策はどのようなものか。

大都市圏内・圏域間の役割分担と連携

- ◆交通ネットワーク、ICTの発展等を踏まえ、大都市圏内の都市構造、圏域間の役割分担と連携はいかにあるべきか。
- ・リニアによる人流等の変化は、リニア中間駅を含め都市構造にどのような影響を与えるか。
- ・首都圏三環状道路の概成が見込まれるなどインフラが着実に整備される中、物流施設等の立地はどう変化し、都市構造にどのような影響を与えるか。
- ・観光立国のさらなる展開に向けて、大都市の果たすべき役割、必要な機能は何か。
- ・ICTの進展は、ヒト・モノ・情報の動きにどのような変化をもたらし、大都市相互の関係や都市構造にどのような影響を与えるか。
- ・大都市近郊における都市構造の変化をとらえて、緑地や生態系の保全・回復、水と緑のネットワーク形成をどのように推進すべきか。

関西圏の目指す方向性

日本有数の歴史・文化遺産の集積を活かした
観光拠点

再生医療などの強みを活かした
医療拠点
(国家戦略特区指定)

個性的な都市群と人口集積を活かした
スーパーメガリージョンの西の牽引拠点

大規模都市圏としてのポテンシャルを活かした
首都代替拠点

2. 関西圏における取組み事例①うめきた～都心部における官民連携による大規模開発～

■うめきた(大阪駅北地区)におけるまちづくり

◆ 1期開発 (グランフロント大阪)

★アジア・世界へのゲートウェイ

大阪・関西からアジアのゲートウェイとして、ナレッジキャピタルを中心とした国際的な情報・人材の集積・交流拠点を形成。

★公民連携によるナショナルプロジェクト

行政、学会、経済界、開発事業者が連携した大規模プロジェクト。一体的なまちの運営組織であるグランフロントTMOにより公民連携によるまちづくりを推進。

＜グランフロントTMOの取組み＞

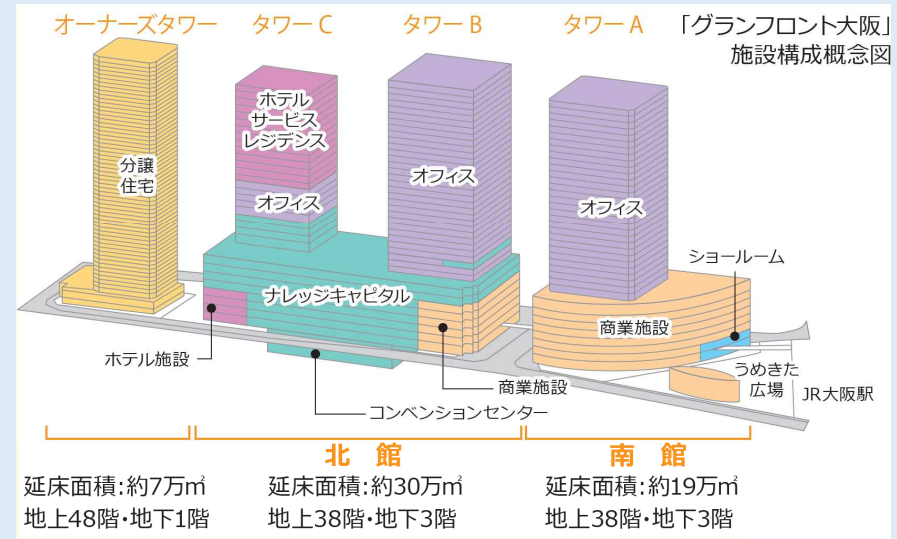
- ・歩道空間を活用した「オープンカフェ」
- ・梅田地区の新たな交通サービス「UMEGLE」(エリア巡回バス、レンタサイクル、駐車場連携)
- ・新たな文化芸術を発信「イベントプロモーション」



オープンカフェ



UMEGLE(うめぐる)



◆ 2期開発 (うめきた2期まちづくりの方針)

★まちづくりの目標 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

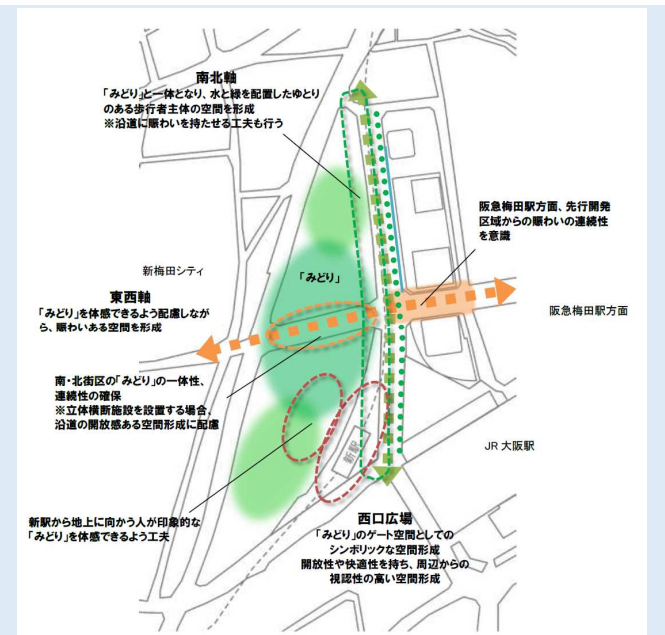
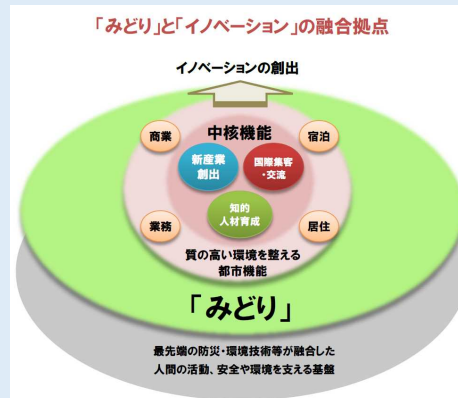
- 世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」
- 新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点

◆「みどり」の役割、空間構成、配置規模

- ・「みどり」をうめきた2期区域全体に展開し概ね8ha(水面等も含む)を確保。
- ・地上のまとまった「みどり」については、2期区域のシンボルとして地区中央部に確保し、その規模は概ね4haとする。

◆「みどり」と融合し価値を創造・発信する「イノベーション」～導入する都市機能

- ①新産業創出 (例: 健康・医療・環境・エネルギー等)
- ②国際集客・交流 (例: MICE、文化創造・発信等)
- ③知的人材育成 (例: 連携大学・大学院、国際化教育等)



2. 関西圏における取組み事例②京都～観光MICE振興に関する取組み～

京都市による各種計画

市政の基本方針

京都市基本構想

21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す長期構想。「5000万人観光都市構想」を呈示。2001-2025

未来・京都観光振興計画 2010+15

官民連携による計画。年間5000万人の入込を維持しつつ、観光都市の「質」を向上。ラグジュアリー層も視野。2010-2014

京都観光振興計画2020

2014に観光都市世界一の評価。2020年を見据え、世界があこがれる観光都市を目指す。観光消費年間1兆円。2014-2020

京都市MICE戦略

自治体初の戦略を策定

京都市MICE戦略2020

「世界があこがれる観光MICE都市」への更なる飛躍を目指す

融合

主な分野別計画等

- 歴史都市・京都創生策Ⅱ
- 京都市景観計画
- 「歩くまち・京都」総合交通戦略
- 京都文化芸術プログラム2020(仮称)
- 大学のまち京都・学生のまち京都推進計画

等

計画に沿ったプロジェクト等

★施策例

地域と連携した新たな観光資源の掘り起こしや既存観光地の再構築、祭り・伝統行事などの地域の魅力の発信による地域の活性化を図る。
→中央卸売市場の施設整備や京都鉄道博物館の開業、梅小路公園の再整備等により、新たな賑わいが創出されることを契機とした京都駅西部エリアの活性化

★京都市MICE協議会の立ち上げ

・京都市内のMICEビジネスに関わる事業者、学術関係者、行政機関等の関係者を集めた協議会を立ち上げ、産学公との連携の下、課題や情報の共有体制の強化を図りMICE誘致の推進を図る。

★国立京都国際会館の拡充整備

・国の平成26年予算において2500人規模の多目的ホールの整備(平成30年竣工)。昨今の国際会議場の大型化・多様化に対応可能な5000人規模の更なる拡充の早期実現に向けて取り組む

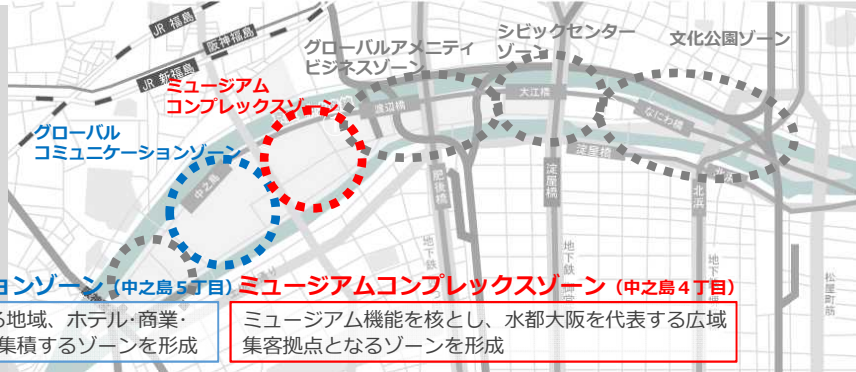


文化芸術を「知る・体験する・学ぶ・創る」ことから、京都に人が集う



2. 関西圏における取組み事例③中之島～官民連携によるマスタープランに基づくまちづくり～

中之島全体のマスタープラン



グローバルコミュニケーションゾーン (中之島5丁目) **ミュージアムコンプレックスゾーン (中之島4丁目)**

多世代が交流し国際的に誇れる地域、ホテル・商業・業務・住宅などの様々な機能が集積するゾーンを形成

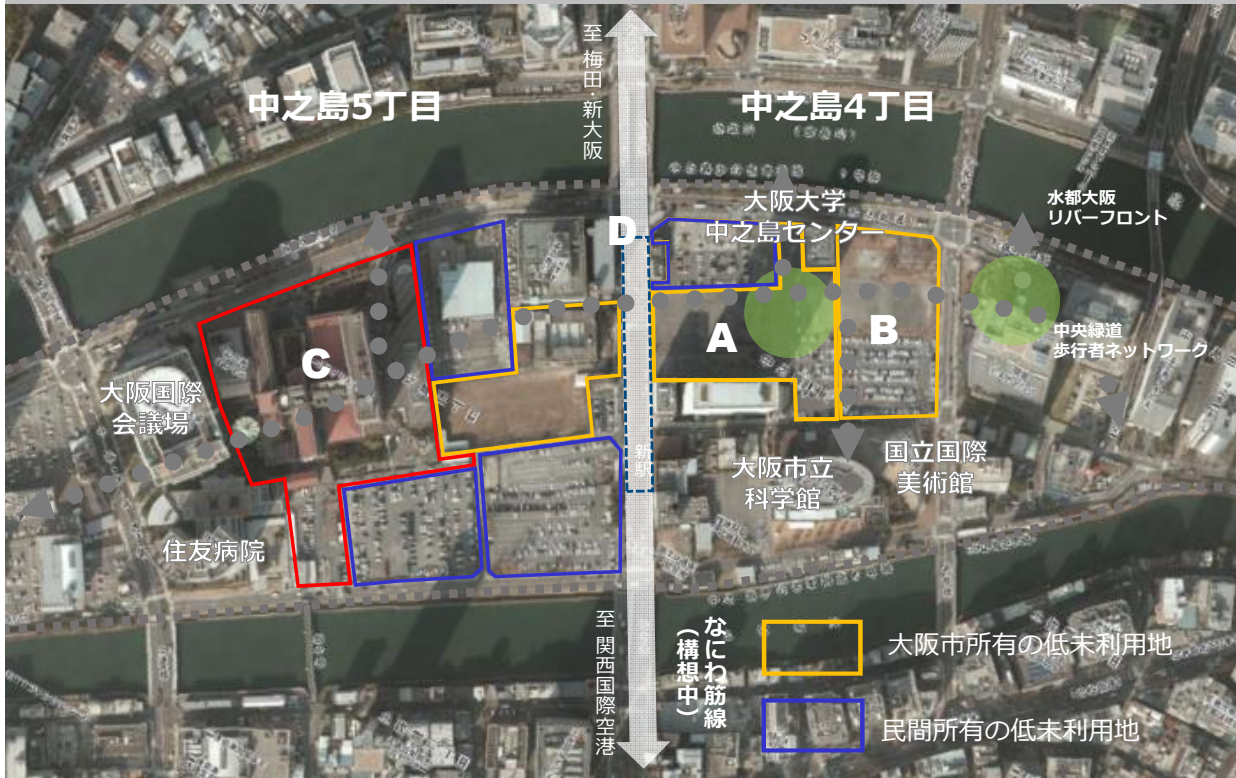
ミュージアム機能を核とし、水都大阪を代表する広域集客拠点となるゾーンを形成

今後の開発

A 大学や業務・商業・宿泊・文化施設等による**複合開発**の誘致 (2015年度売却予定)

プレミアムライフゾーン

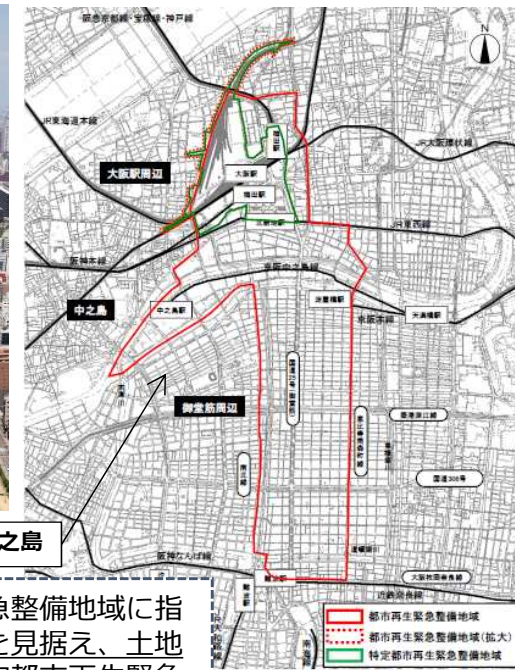
B 大阪市が「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムを整備 (開業2020年度)



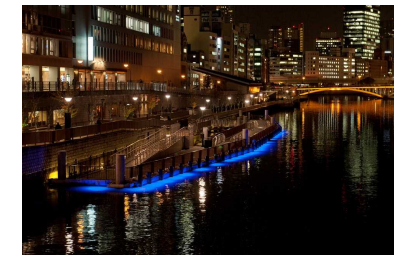
C リーガロイヤルホテルの建替えを含む再開発を計画 (2021年開業目標)

D 中之島地区に、なにわ筋線 (構想中) 新駅設置を検討 (開業年未定)

大阪市の低未利用地 (黄色枠)
民間所有の低未利用地 (青枠)



現在、中之島は都市再生緊急整備地域に指定されている。今後の開発を見据え、土地の高度利用等を図るため特定都市再生緊急整備地域指定に向け要望中



★都市魅力創造戦略
★水と光のまちづくり
官民連携(水辺のまちづくり委員会)による中之島の夜景の創出、河川空間の規制緩和も含めた中之島活性化に向けた取組み



※出典：中之島まちみらい協議会資料より作成

2. 関西圏における取組み事例④吹田～医療と連携したまちづくり～

- 総合特区法に基づきH23年12月に指定
- 関西イノベ特区は9地区で構成



◆ライフ分野

医薬品

医療機器

先端医療技術

先制医療

◆グリーン分野

バッテリー

スマートコミュニティ

関西国際空港地区

阪神港(大阪港)

医薬品専用共同定温庫



KIX Medica

◆ JR 駅周辺における医療と連携したまちづくり(吹田市・岸辺駅)

駅前における国立循環器病研究センターの移転等にあわせた医療クラスターの形成

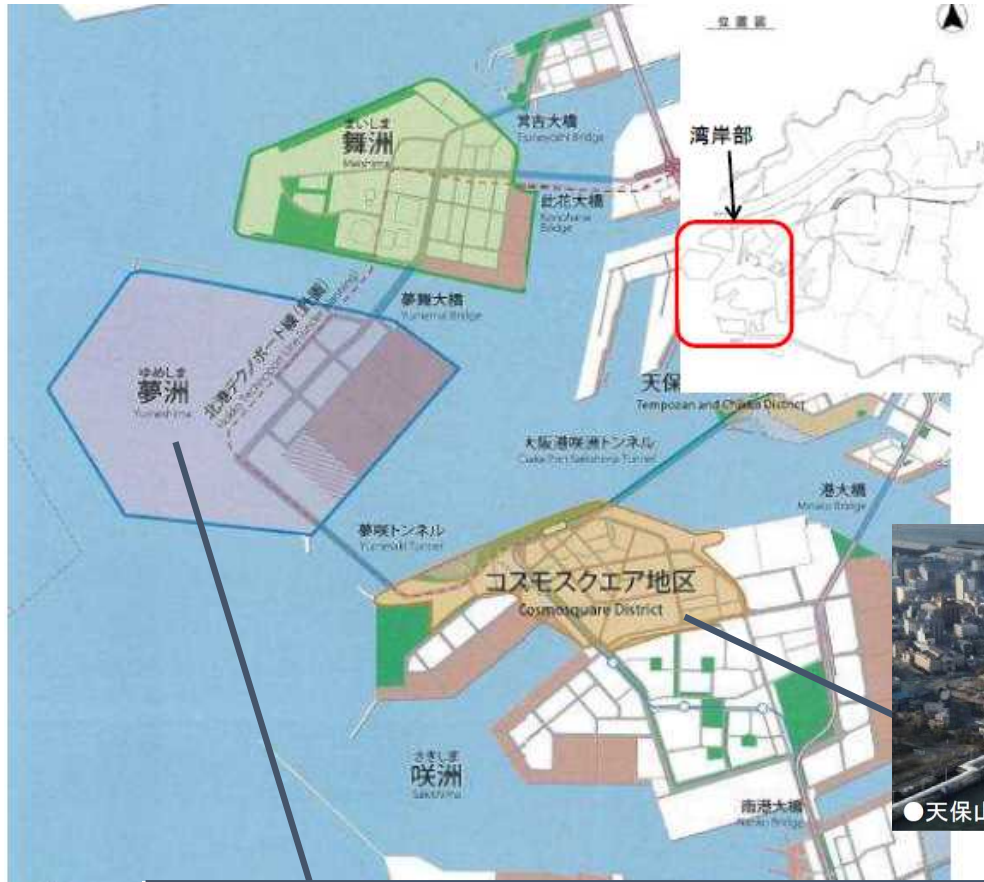
～世界初となる循環器病予防のまちづくりの「吹田モデル」を創成し、世界をリードする健康都市に～

- ①地元自治体を中心となり、国立循環器病研究センターや地域医療機関、市民、近隣自治体と協力して市民の健康増進に資する施策を実施
- ②健康産業関係の企業、NPO法人など民間活力を生かした市民参加型の「生きがいづくり」や「就労」を兼ねた循環器病予防の取組みを検討。
- ③周辺の商業テナント等との連携を図り、官民が一体となった健康関連施策を検討。



※吹田市HPより作成

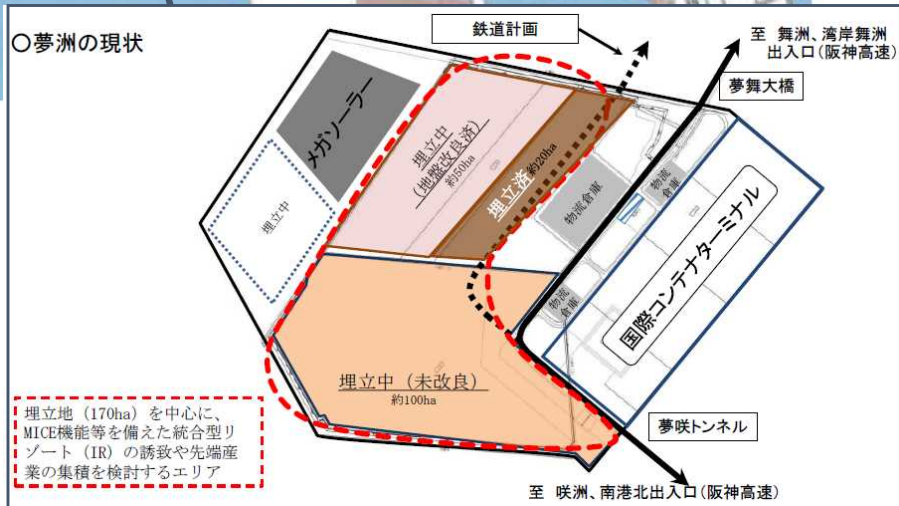
2. 関西圏における取組み事例⑤大阪湾ベイエリア～大阪・関西の国際観光ハブ～



- ★バッテリーやメガソーラーによる環境・新エネルギーの拠点化
- ★IR(統合型リゾート)の誘致
→都心から主要交通機関で概ね30分以内かつ国際空港から60分以内の立地。MICE拠点、エンタテインメントの集積。
- ★ユニバーサルスタジオジャパンが立地(年間入場者数1000万人超)
- ★関西の物流機能の中心を担う国際コンテナターミナルが立地。



※出典：大阪エンターテインメント都市構想研究会

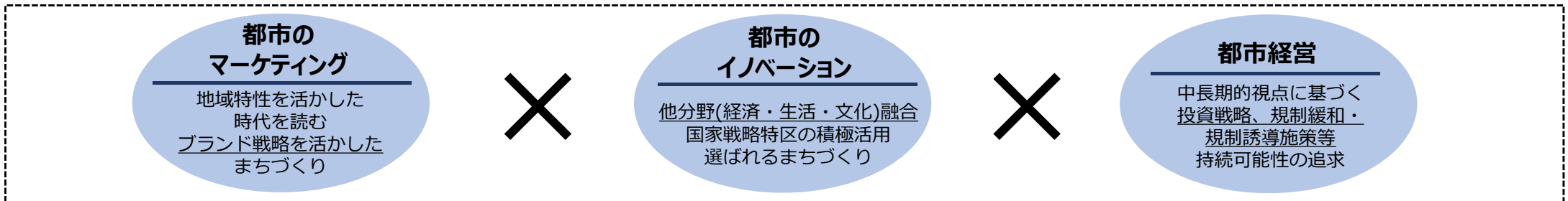
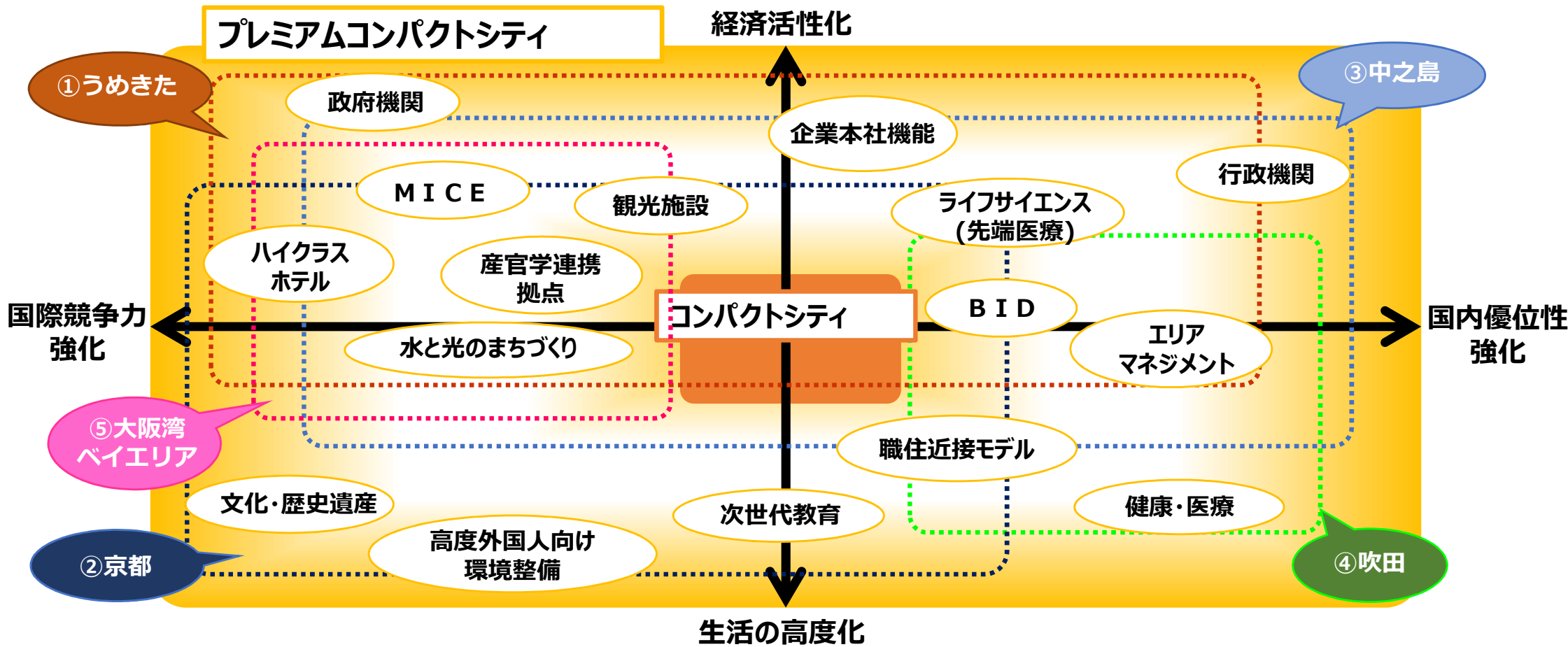


※出典：大阪市HPより作成

3. 関西圏のまちのあり方

★ 関西圏の目指すまちづくり～「国際競争力強化」と「国内での優位性確保」を目指す～

プレミアムコンパクトシティー大都市型の多機能、高品質なコンパクトシティ



国際化戦略都市研究会①

国際化戦略都市研究会について

[会の概要] 海外の先進的な国際都市を都市開発の視点で調査・研究し、大阪都心エリアの国際化実現構想を具体的に立案する。併せて、行政や経済界等に広く発信することにより行政の政策立案や機運醸成につなげることを目的とする。

[加入企業] 大阪を地元とするデベロッパーやインフラ企業等 5社

[活動期間] 平成25年8月1日～

検討ステップ

大阪の現状把握

既存の調査、データ、文献等を活用し現在の大阪都心部の状況、世界の都市の中でのポジション把握。

ベンチマーク都市の想定

世界の第二都市で国際化の取組みに成功している都市をベンチマークとして想定

ベンチマーク都市の調査

文献調査及び現地でのヒアリング等により、ベンチマーク都市の現状、施策、推進体制、効果等調査。

大阪の目指すべき都心像

ベンチマーク都市調査を踏まえ、概ね15年後の大阪の目指すべき都市像を設定、大阪都心部の整備方策について検討

大阪の現状把握による課題の抽出

- 具体的な都市戦略の不足
 - ・公民連携のアクションプランが必須だが現状は不明確
- 都市機能の単一固定化
 - ・都心部エリアではエリアごとに機能が単一固定化
- 快適な都市空間の不足
 - ・緑被率が少なく、空港の利便性に課題

ベンチマーク都市の想定

○Secondary City

- ・世界から多くの人を呼び込み持続的に成長
- ・個性豊かな発展を遂げている
- ・政治の中心である首都以外の都市英国

イギリス バーミンガム、マンチェスター、リバプール
豪州 メルボルン、シドニー



ベンチマーク都市の調査

★調査・研究の視点

- 統合的な都市マネジメントのあり方
実現性の高い都市ヴィジョン、短期的な実行プラン、公民連携の推進体制
- 都市機能の複合化のあり方
定住者を呼び込む機能、ビジネスマンを呼び込む機能、学生・研究者を呼び込む機能、都市の個性を生み出す機能
- 快適な都市環境の整備のあり方
アクセス性の向上を図る交通インフラ回遊性の向上を図る歩行者環境都市の魅力となる公共空間

都市のOSをつくる

人・モノ・情報を効果的に運用し、都市の資産とするためのオペレーションシステムを構築する。

モニタリング・評価・共有を繰り返す

中期的なマスタープランをPDCAサイクルで実態に適合させる。

世界から人を呼び込む

‘そこに行く動機’をつくること

街の個性を際立たせる

‘また行きたくなる’ここにしかないユニークな体験をしてもらうこと

公民連携で街の価値を最大化する

街の活力を作るには、市民や民間企業が元気であり続けること

都心部への人口集約

都心居住と国際集客の促進
都市機能のミクストユース化

個性的なまちづくり

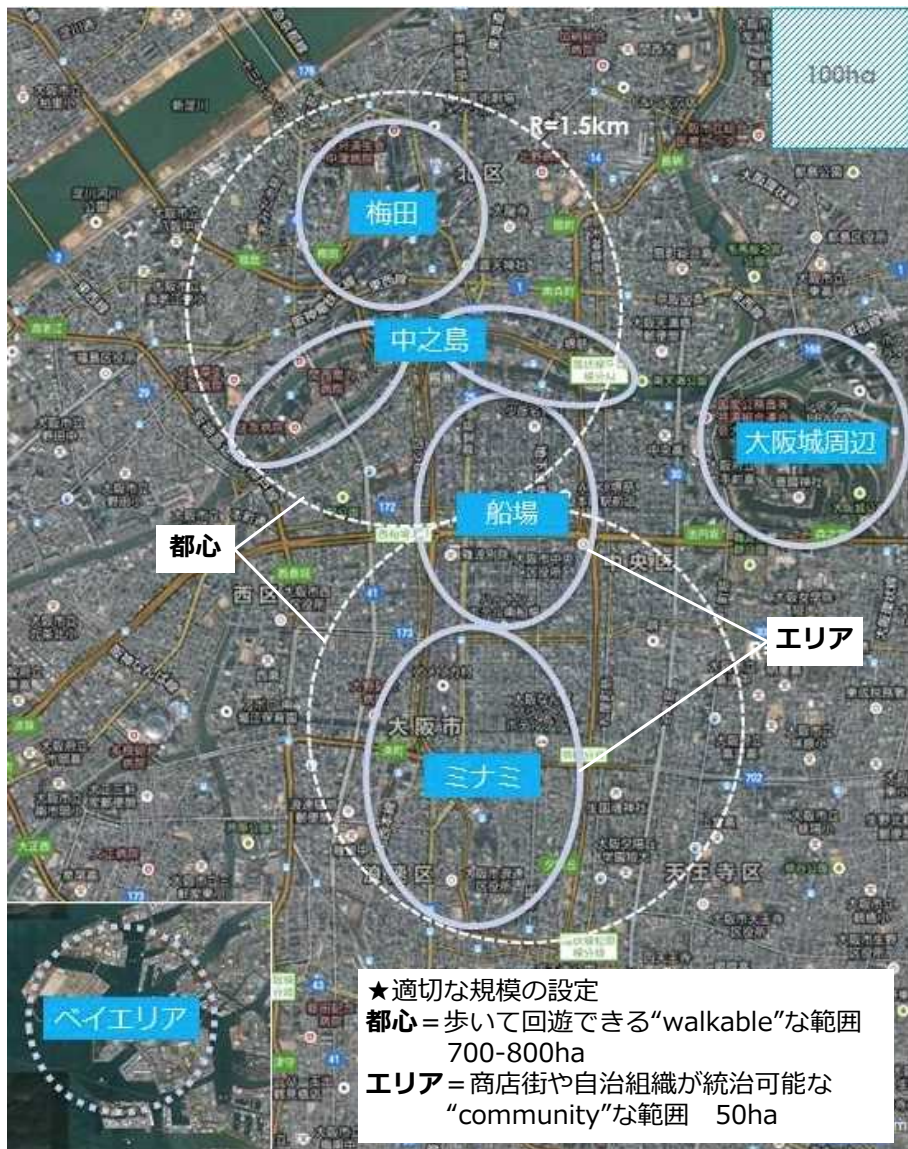
ユニークネスの掘り起こし
オンリーワンのまちづくり

公民連携のプロセス

全員参加でプラン策定
実行後は観測・分析・記録・共有

大阪の目指すべき都心像

24時間365日質の高い賑わいのある都心



梅田エリア)
知的活動に興味の有る人々に好まれる
知的交流や体験が繰り返され
チャレンジングなことに寛容な
イノベティブ拠点

中之島エリア)
国際的なビジネスマンに好まれる
芸術文化・豊かな自然環境を有する
国際水準のビジネス環境
ハイエンドビジネス拠点

船場エリア)
クリエイティブ人材に好まれる
ヒューマンで先進的なライフスタイル
を展開可能な柔軟性のある
クリエイティブ産業育成拠点

ミナミエリア)
個性的な商店や大衆芸能等が集積
観光客に好まれる
文化的で個性的な雰囲気を持つ
エンタテインメント・観光拠点

大阪城公園周辺エリア)
大阪城公園の自然の下、周辺の多様な
都市機能に集まる人々が健康的なライ
フスタイルを展開する
ハイエンド複合交流拠点

Liveability

質の高い賑わいのある都心実現には、ライフスタイルが都市の魅力となることが重要。「居住」環境に文化的な要素を定着化させることで世界の人を惹きつける“ここだけの魅力的なライフスタイル”に昇華させる。

Mixed Use

小売・サービス業の割合が高い都心の経済の維持発展には、常時消費活動を活性化させることが効果的。都市機能の複合化は、居住者・オフィスワーカー・観光客等、生活パターンの異なる人々が集積するため、曜日、時間帯を問わず消費活動が継続する。

Connectivity

エリアの周辺部には個性的な場所が存在。エリア中心部の大規模開発や都市インフラの更新時に周辺部とのアクセスを向上させることで、エリアの多様性を増幅しエリアの集客力を向上と周辺部の環境改善を図る。

Walkability

“いい街路”には質の高い賑わいがある。公共空間に、文化的な活動やLRT等の移動手段を導入することで、街全体の集客装置化を図る。

Management

マーケティング・プランニング・モニタリングのプロセスを一元的に管理する。また、世界から人の呼び込むには、あらゆる機会を捉えたプロモーションが必要であり、都市・都心・エリアの役割分担の下、統合的なプロモーションを図る。